

■松岡恕庵 本草家，儒学者，医者。江戸期のナチュラリスト。稻生若水門下の逸材で，小野蘭山の師となった。

まつおかじょあん

足利学校再建1668＝ 京都に生まれ，

・・・・・・1677＝9歳：

徳川綱吉將軍1680＝12歳：

堀田正俊暗殺1684＝16歳：

八百屋お七・1683＝17歳：浅井周伯の私塾養志堂に入って，東洋医学を学びながら，

・・・・・・1686＝18歳：

生類憐令始・1687＝19歳：

__経学を山崎闇斎に，のち伊藤仁斎に学ぶうち，

__詩経に出てくる動植物の名の釈明に苦しみ，稻生若水に本草を学ぶ。

生類憐令頂点1695＝27歳：

儒医として身を立てたというのが，医学の学統は知られていない。

団十郎刺殺・1704＝36歳：

徳川綱吉没・1709＝41歳：

乾山陶器店・1712＝44歳：*代表著作「用薬須知」は，その自叙から，この年が一応の成稿年とみられる。

和漢三才図絵1713＝45歳：

徳川吉宗將軍1716＝48歳：__周定王原著「救荒本草」を刊行するなど，

__当節の物産学の傾向に迎えられるものがあり，

小石川薬園・1721＝53歳：*幕府から薬品鑑定を依頼され江戸に下ったが，在府3か月で帰京した。恕庵には御用勤めは魅力なかったらしい。自宅に土蔵が二つあり，一方には和，他方には漢籍をそれぞれ蓄えていたから，官庫を利用できる特権も関心なかった。それに採薬行が嫌いだった。

・・・・・・1722＝54歳：幕府は江戸に和薬改会所を設けた。

帰京後，__医師として励む傍ら，本草を講じ，百名を越す聴講者を集めた。テキストに「本草綱目」用い，その口述筆記「本草紀聞」「本草会誌」が遺されている。

懷徳堂公認・1726＝58歳：*「用薬須知正編」(五巻)刊行，この書は，日用薬物320種について薬物ごとに臨床医に役立つ撰品の知識が簡潔に述べられている。

・・・・・・1731＝63歳：

享保大飢饉・1732＝64歳：

他方「恰顔斎桜品」始め「梅品」「蘭品」「竹品」「菜品」「菌品」「苔品」「介品」「広参品」「石品」と，単品ごとの形態や生態を解説した著作を刊行した。これらは薬物学的でなく，博物学的であった。

・・・・・・1740＝72歳：

梅岩没・・・1744＝76歳：__「本草綱目」の講義を開始し，水部よりはじめたが，

徳川吉宗隠居1745＝77歳：

菅原伝授十・1746＝78歳：*禽部の半ばまで達したとき病に倒れ，病没した。

没後，遺稿を整理編集して「用薬須知後編」「用薬須知続編」が刊行された。「食療正要四巻」。